

日立スカラーシップ卒業式

2017年3月17日、日本工業倶楽部会館(東京都千代田区)にて、日立スカラーシップ博士課程奨学生の卒業式を開催しました。当日は、卒業生の母国大使館や文部科学省からご来賓を迎え、指導教授、選考委員、ホストファミリー、日立関係者など、本プログラムの関係者約60名が出席し、和やかな雰囲気の中で行われました。

今年度の卒業生は、インドネシア、フィリピン、ベトナムからの自然科学分野の大学教員5名です。帰国後、母校で研究を続けるとともに、後進の指導にあたり、また日本との共同研究や交流の懸け橋となることが期待されています。式では、卒業生一人一人が、自身の研究について英語でプレゼンテーションを行った後、日本語で日本での思い出や感謝のスピーチを行いました。会場は暖かい

い拍手に包まれ、卒業生を祝福しました。



●詳細につきましては下記URLをご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.org/works/human/scholarship.html#Scholar>

日立みらいイノベータープログラム検証授業実施



日立財団の理工系人財育成支援の一環である『日立みらいイノベータープログラム』の検証授業を、2016年11月～2017年3月にかけて国立第八小学校(東京都国立市)にて実施しました。

本プログラムは、日立財団が2016年度に独自に開発した小学5年生向けの出張授業プログラムで、4か月にわたる長期のプロジェクトとなっています。これからの理科教育に求められる「問題解決型」の探求学習を実現するもので、「未来をイノベートする力」を養い、それが結果的に理知的な知識・技能の深まりや興味関心の喚起につながるようにデザインされています。フェーズ1では、身近な題材を使ったスキルトレーニングを日常的に行い、フェーズ2では、「より良い学校に改革しよう!」をテーマに、トレーニングで培った力を応用して解決すべき問題に取り組んでいきます。検証授業では日立グループ社員が「問題解決のプロ」として登場し、日立のイノベーション事例を紹介しながら、児童にトレーニングへの意欲を高めてもらいました。応用編のフェーズ2の中間発表では、児童はそれぞれのグループで検討した学校改革アイデアを発表し、日立社員やクラスメートから評価やアドバイスを受けました。そして最終発表では、それらのフィードバックをもとに改善したアイデアを各グループが発表し、日立社員が講評を行いました。その後選抜されたグループは4年生の前でプレゼンを行いました。最後に、身のまわりの問題から課題を設定することがイノベーションの第一歩であるとのメッセージを日立社員から贈り、検証授業が終了しました。この検証結果を受け、本プログラムは2017年度より本格始動する予定です。

心

お知らせ

日立財団の紹介ムービー「The History and The Future」を公開しました。



財団の歴史と今後めざす姿を動画で紹介しています。ぜひご覧ください。

●日立財団の紹介ムービーは下記URLをご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.com/special/history.html>

編集後記

今回は、2016年度に実施した日立財団のさまざまな取り組みを3つの中核分野ごとに紹介しています。「地域コミュニティ支援」では、日本の超高齢社会をテーマに開催した「社会を見つめるシンポジウム」と、日立財団では初の試みとなるWebマガジン「みらい」の創刊を特集しております。この新たなメディアによって今後も幅広い読者に向けて種々の社会課題を取り上げていきたいと思っております。「学術・科学技術の振興」では、新たに生まれ変わった「倉田奨励金」の贈呈式の様子や、好評を博した「高尾記念市民講座」の情報など、科学技術の振興をルーツとする日立財団ならではの活動を紹介します。また「人づくり」の分野では、2016年度に独自に開発した「日立みらいイノベータープログラム」の検証授業の様子を報告しています。ぜひ一読頂けると幸いです。

このように2016年度は新たな動きを見せた日立財団ですが、2017年度はさらに社会課題の解決に向けて活動を加速させてまいります。皆様のご支援とご指導を引き続きよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 日立財団

〒100-8220 千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階
03-5221-6675 FAX 03-5221-6680
E-mail : hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

●日立財団のウェブサイトが新しくなりました。

<http://www.hitachi-zaidan.org>

発行日：2017年4月1日発行
発行責任者：田村光範 / 編集責任者：高野美樹 / 印刷：(株)クリエイターズギルド

NewsLetter

Vol.28 / 2017.04

日立財団では、年に2回、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックス、今後のイベントの開催予告など、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください！

地域コミュニティ支援

社会を見つめるシンポジウム「漂流する高齢者」を開催

2016年12月10日、日立財団が、東京都文京区にある拓殖大学文京キャンパスE館「後藤新平・新渡戸稲造記念講堂」において、シンポジウム「漂流する高齢者」を開催し、学生や会社員、その他一般の方々を含め約140名が参加しました。本シンポジウムは、日立財団が取り組む「地域コミュニティ支援」の一環であり、「社会を見つめるシンポジウム」と銘打ち、現代社会が抱えるさまざまな社会課題をテーマに開催するものです。2016年度第一回目となる今回は、「漂流する高齢者」の副題にあるとおり、加速する高齢化の問題に焦点を当てました。

現代の日本は、全人口に占める65歳以上の人口が27・3%を占め、高齢化を通り越し「超高齢社会」となっています。今後も日本の高齢化率は上昇すると見られ、高齢者の問題は誰もが避けて通れない最大の社会課題の一つと言えます。深刻であるが故に暗くならがちなテーマですが、このたびのシンポジウムは、逆に笑いを交え、明るく前向きに課題をとらえる趣向で開催しました。



日立財団田中理事長によるあいさつ

当日は、日立財団の田中理事長による開会のあいさつに続き、B&Bのメンバーとして一世を風靡した漫才師、島田洋七氏による「洋七・オカンのがばい介護日記」と題した基調講演が行われ、会場は爆笑の渦に巻き込まれました。お笑い界でのさまざまなエピソードや、累計販売部数1000万を超える大ベストセラーとなった著書「佐賀のがばいばあちゃん」に登場する「ばあちゃん」との思い出など、次々に繰り出される抱腹絶倒の内容に大笑いしながらも、その講演には人生の真理や哲学があり、特にご自身の介護への向き合い方には、「元気が出た」「幸福感をもって暮らすコツを学んだ」といった声が聞かれ、多くの観客の共感を呼んでいました。島田氏の惹きこまれる講演は、性別や年齢を越えて観客に大きな感動や共感をもたらしてくれました。



島田洋七氏による基調講演



続くパネルディスカッションには、「下流老人」という言葉を生み出した、生活困窮者支援を行うNPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典氏、認知症の専門家でご講演や執筆をされている認知症介護研究・研修東京センターの永田久美子氏、地域の医療・介護職と共有するICTシステムの担当者であり、自身も介護におけるICTの役割を研究中的の日立製作所公共システム事業部の川崎英樹氏という多彩な3名のシンポジストをお迎えしました。コーディネーターは、犯罪学の専門家であり、犯罪予防論の研究を続けられている拓殖大学政経学部教授の守山正氏が務め、異なる局面から高齢者を取り巻く課題に切り込みました。

藤田氏からは、格差社会における高齢者の貧困に対し、実際の事例を用いながら、いかに「下流化」を防いでいくかそのノウハウについてお話いただきました。続いて、守山氏からは高齢者を取り巻く犯罪問題を「加害」と「被害」の両面から捉え、講じるべき政策について提言いただきました。永田氏からは、認知症という「絶望」から、認知症とともにより良く生きていくという「希望」へと変えていく可能性について動画を交えてお話がありました。川崎氏は、介護におけるICT(情報通信技術)の利活用に焦点を当て、自身の経験を交え、情報が必需品である現代において「情報弱者」にならないためのコツをお話いただきました。

社会を見つめるシンポジウム「漂流する高齢者」



格差社会における高齢者の貧困 ～老後破産の実態

特定非営利活動法人 ほっとプラス
代表理事

藤田 孝典氏



認知症と共に生きる： 絶望を希望に変える地域の力

認知症介護研究・
研修東京センター 研究部 部長

永田 久美子氏



高齢者の犯罪における加害と被害

シンポジウム・コーディネーター
日立財団 Web マガジン「みらい」編集主幹
拓殖大学政経学部
教授

守山 正氏



介護の準備とICT(情報通信技術)の 利活用について

株式会社日立製作所 公共システム事業部

川崎 英樹氏

▶ このように、シンポジウムでは多様な視点から高齢化の課題が論じられましたが、共通していたのは「地域コミュニティ」とのつながりの重要性でした。

▶ 参加者からは、「将来の日本のために必要な内容だった」「地域と人とのつながりの大切さを学んだ」「高齢者の問題に対する考え方を見直す良い機会となった」「人生を明るく前向きにとらえる気持ちになれた」などの感想がありました。

日立財団は、社会的弱者を取り巻く種々の課題を取り上げ、その解決法や展望、支援策を共に考える「社会を見つめるシンポジウム」を今後も開催していきます。

●詳細につきましては下記URLをご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.org>

Webマガジン「みらい」創刊号

日立財団は、急速に進む少子高齢化や人口減少などの、社会変動によって私たちの生活や地域コミュニティにおよぼす影響や、社会課題を多方面からとらえ、幅広い読者に向けWebマガジン「みらい」を創刊いたしました。

■創刊号特別インタビュー

つぎの豊かな「みらい」に向けて。

日立財団理事長 田中 幸二

×「みらい」編集主幹・拓殖大学教授 守山 正氏

■創刊特別メッセージ

変化の時代から創生へ、「みらい」への期待

■シンポジウム講演

■論文特集

「現代社会と問題を抱える子どもたち
～いま何が必要か」

- ・増え続ける児童虐待への対応
- ・思春期心性と不登校
- ・IoT時代に生きる子どもたち



<http://www.hitachi-zaidan.org/mirai/index.html>

第44回小平奨励賞の受賞式

2016年10月13日、茨城県日立市で第44回小平奨励賞の受賞式を開催しました。

長きに渡り、清掃美化、聴覚障害者支援および国際交流活動を行ってきた個人・団体が受賞しました。



●詳細につきましては下記URLをご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics020.html>

第45回小平記念作文入賞者表彰式

2016年12月13日、日立市内で第45回「小平記念作文」の入賞者表彰式を開催しました。

2016年度は459校から18,932編の応募があり、小学校低学年の部、小学校高学年の部、中学校の部ごとに、最優秀賞1編、優秀賞5編、奨励賞5編の3部門合計33編が入賞しました。

表彰式の後、第45回を記念し、日立交響楽団の記念演奏を行いました。



●詳細につきましては下記URLをご覧ください。入賞者の作文集を掲載しております。

<http://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics027.html>

学術・科学技術の振興

2016年度(第48回)倉田奨励金贈呈式

3月1日、経団連会館において、約100名の出席者のもと、2016年度(第48回)倉田奨励金贈呈式を開催しました。

倉田奨励金は、当財団が設立当時より行っている研究助成金事業ですが、このたび社会課題と研究助成の関係性を明確にしたプログラムにリニューアルし、「ヒトと社会」をキーワードとした自然科学と社会科学との融合分野も対象とするなど、新しい倉田奨励金としてスタート

しました。贈呈式では受領者代表より倉田奨励金を活用して課題解決の努力をしたいとの強い意気込みを感じさせる挨拶がありました。

また、贈呈式後に開かれた記念パーティーは、受領者と企業の交流の機会にもなり、和やかな雰囲気の中、意見交換など交流を深めていきました。日立財団は本事業で社会課題の解決をめざす研究をオープンイノベーションにつなげます。



●受領者(30名)、贈呈式の詳細につきましては下記URLをご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics029.html>

第12回 高尾記念市民公開講座

重力波で宇宙を探る — アインシュタインの相対論と新しい天文学 — 講演録

2016年10月30日、東京御茶ノ水のWATERRAS COMMON (ワテラスコモン)ホールで開催した、高尾記念市民公開講座「重力波で宇宙を探る—アインシュタインの相対論と新しい天文学—」の全講演内容を動画(スライドショー)で公開しました。

東京大学大学院の安東正樹さんを講師にむかえ、昨年アメリカで初観測され世界中で話題となった重力波と、新たな天文学の可能性、日本で建設が進められている重力波望遠鏡KAGRA(かぐら)などについて、わかりやすく解説いただいています。

●動画(スライドショー)は、当財団ウェブサイトの開催レポートページより、ご覧いただけます。

<http://www.hitachi-zaidan.com/topics/topics021.html>



「季刊 環境研究」No.182号発行と「環境研究」休刊のお知らせ

「季刊 環境研究」の最終号、182号を発行しました。特集は「45年間の歴史を振り返り将来へのレガシーとする」をテーマとし、過去の全記事を、法律、経済、行政・政治・ガバナンス、など15の分野に分類して各分野の専門家にレビューしていただきました。

さらに学界、政界・官界、ビジネス界を代表する三人の方々に、レビュー論文をもとに今後の展望まで含め多めに語っていただいた鼎談を収録しています。昨年3月で終了しました「環境サイエンスカフェ」の最後の2件の講演録も掲載しました。

本号には、第1号～第181号の総目次、分野別索引、著者名索引、そして第100号～第181号の全記事のpdfファイルを記録したDVDを付録として添付しています。

「環境研究」はこの182号を最後に休刊となります。

皆様の長い間のご愛読、ご支援に心より感謝申し上げます。



●目次の詳細、購読申込み方法は下記URLをご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics030.html>